



敬老の日にちなんで
町内の高齢者を訪問



▲森町長から花束を受け取る加藤さん

9月21日の「敬老の日」を前に、9月15日、町内の高齢者加藤ヤエ子さん（101歳）を訪ね、森町長からお祝いの花束と記念品を手渡しました。

加藤さんは小田原出身の元社会科の高校教諭で、「好き嫌いなく1日3食しっかりで飯を食べる。また、若い頃は水泳が趣味でほぼ毎日泳いでいた」としっかりと口調で長寿の秘訣を話してくれました。

町内では、4月1日現在で100歳以上の長寿者は12人で、今年度は6人が100歳を迎える予定です。



高糖度で順調な仕上がり
抑制スイカ目ぞろえ会

9月25日、函南町の特産品「秋の函南スイカ」(抑制スイカ)の出荷が開始し、JA三島函南函南店出荷場で目ぞろえ会が行われました。

目ぞろえ会は、スイカの等級、形状、たたいた音などで等級基準の確認を行います。

今季は、生育時期の曇りや雨、日照不足が影響し、生産者は大変苦労したとのことでしたが、食味は順調で申し分ないとのことでした。

秋のスイカの出荷時期は9月下旬から10月中旬で、夏のスイカに比べて若干小ぶりですが、甘みに遜色がなく、主に贈答品とし近在市場、京浜市場へ出荷されます。



▲等級、形状、音などを確かめる関係者



殉職者へ労いと感謝の気持ちを込めて
丹那トンネル工事殉職者慰霊式



▲感謝の祈りを捧げる参列者

9月26日、函南駅近くの丹那トンネル工事殉職者慰霊碑前で丹那トンネル工事殉職者慰霊式が行われました。

丹那トンネルは開通して81年を迎え、昭和9年開通まで16年間に渡る建設工事が行われ、工事期間中に67人もの尊い命が失われました。(67人のうち36人の名前が函南側の慰霊碑に刻まれています)

当日は、関係者など約30人が出席し、殉職者への労いと感謝の気持ちを込めて焼香、読経などが捧げられました。



美しい伊豆創造センター設立フォーラム
「伊豆は1つ」実現に向けて



▲世界一美しい伊豆を目指してのパネルディスカッション

9月6日、函南町文化センターで美しい伊豆創造センターの設立記念フォーラム「世界一美しい伊豆を目指して」が開催されました。

同フォーラムでは、食の視点から地域再生を図る基調講演、ジオパーク、JRデスティネーションキャンペーン、伊豆縦貫道をテーマとした基調報告、「世界一美しい伊豆を目指して」のパネルディスカッション、伊豆半島ランドデザインの実現に向けた「美しい伊豆創造・伊豆宣言」が行われました。

この他に、会場の外では関係市町による観光PR & 物産展が同時開催され、たくさんの来場者でにぎわいました。



桑原の歴史ある場所を紙芝居で紹介
「かなみ仏の里ものがたり」

9月10日、桑村小学校で大型紙芝居グループ「ふうせんかづら」による大型紙芝居の読み聞かせが行われました。

読み聞かせは小学3年生を対象に行われ、桑原の仏像を題材にした自分たちで作製した作品「かなみ仏の里ものがたり - かんちゃん、なみちゃんの夏休み -」を披露しました。

同作品は、東京に住む小学4年生の兄かんちゃんと1年生の妹なみちゃんが母の実家がある桑原に行き、祖父と仏の里美術館や桑原の歴史を巡るという内容です。代表の鈴木さんは、「多くの人にこの紙芝居を見てもらい地域のことを知ってもらいたい」と話してくれました。



▲自分たちで作製した紙芝居を披露しました



食の魅力をもPR
IZU 食彩トレイドフェア



▲各店舗自慢の品をPRしました

9月12日、9月13日の2日間、アクシスかつらぎ(伊豆の国市)でIZU食彩トレイドフェアが行われました。

IZU食彩トレイドフェアは、函南町、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、西伊豆町、南伊豆町、河津町、松崎町の2市6町から食品製造会社など約60団体が参加しました。

同フェアは、商品の販売拡大や新商品をPRすることを目的に行われ、1日目は企業やバイヤー向けの商談会、2日目は一般の皆さんへの試食・販売が行われました。